

第55回夏季大学「海洋と日本の気象・気候～観測から予測まで～」開講のお知らせ

教育と普及委員会

主催：(公社)日本気象学会

後援(予定)：気象庁，日本地学教育学会，(一財)気象業務支援センター，(一社)日本気象予報士会

日本気象学会教育と普及委員会は，最新の気象学の知識の普及を目的として，学生・大学院生，小・中・高等学校の教諭，気象予報士及び気象に興味を持っている一般の方々を対象に，毎年夏休みの時期にやや専門性の高い講座である「夏季大学」を開講しています。今回の夏季大学のテーマは「海洋」です。海洋は，地球の表面積の7割を占め，隣接する大気を介して，気候だけでなく，豪雨豪雪や猛暑などの極端な気象の発生にも様々な影響を与えています。さらに，海洋も大気からの影響を受けており(相互作用)，海洋も大気もそれぞれ循環していることで，時々刻々と水温や海流を変化させています。また，近年の地球温暖化の進行に伴う海洋の変化は，気象や気候への影響を変えつつあり，気候危機の一因です。気象や将来の気候を予測するには大気と海洋の両方を知る必要があるのです。海洋循環と大気海洋相互作用は複雑かつ多様で，長年にわたる研究にもかかわらず未解明な点が多く残されています。これまでに分かってきた海洋と気象・気候との関係についての研究を学び，さらに最新のトピックについて知ることは，これからの海と大気のことを知るきっかけになるでしょう。このような背景から，今回の夏季大学では「海洋」と「気象・気候」をキーワードにして，最先端の科学的知見を観測やモデルなどの幅広い観点から，専門家の皆様に講義を行っていただく企画としました。

○日程，講義題目(仮題)，講師

2021年8月21日(土)10:00～12:20，22日(日)10:00～17:00

「海洋の長期観測による「海洋の健康診断」」
中野俊也(気象庁)

「数値季節予測システムの開発と利用」

平原翔二(気象庁)

「熱帯や極域の国際プロジェクトにおける船舶観測」

米山邦夫(海洋研究開発機構)

「中緯度の海洋と大気の相互作用」

野中正見(海洋研究開発機構)

「海が流れる方向はどう決まる？ 太平洋と日本付近の海洋循環」

木田新一郎(九州大学)

「台風：空と海とのあいだには」

伊藤耕介(琉球大学)

「異常気象，実は海が決めていた！？～鍵を握るは日本の海を測ること～」

立花義裕(三重大学)

※講義題目・講義日程は変更となる可能性があります。

○講義会場

今回の講義はオンライン開催とします。講義の日時等詳細については，今後決まり次第「教育と普及委員会」夏季大学ウェブサイト(https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/summer_school)に公開していく予定です。

○募集対象人数

450名まで

○受講料

1000円(消費税含む)

○講義資料

事前に講義レジュメをオンライン公開しますので，受講される方は取得をお願いします。また，オンライン開催後に，講義資料を「教育と普及委員会」ウェブサイトに掲載する予定です。同サイトには，過去の資料も公開されていますので，ご覧下さい。

○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局

Tel: 03-6453-0611, Fax: 03-6453-0612